
リリースノート

RE1000Plusシリーズ

CentreCOM RE1000Plusシリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この冊子には、付属のマニュアルに記載されていない内容や、製品仕様の変更点などの
最新情報が記載されています。

記述内容

| | | |
|-----|--|----|
| 1 | NetWare 4.1J/3.12J クライアントのインストール | 2 |
| 1.1 | インストール手順 | 2 |
| 1.2 | NetWare ワークステーションのインストール結果 | 3 |
| 2 | NetWareクライアントのNET.CFGの記述の変更 | 5 |
| 2.1 | ODI ドライバのインストール後に I/O アドレスを変更した場合 | 5 |
| 2.2 | NetWare と PC/TCP の共存環境 | 5 |
| 2.3 | NetWare 4.1J / 3.12J と 3.11J の共存環境 | 7 |
| 3 | NetWare 4.1Jサーバーのインストール | 8 |
| 3.1 | AUTOEXEC.NCFの例 | 10 |
| 4 | NetWare 3.12Jサーバーのインストール | 11 |
| 4.1 | AUTOEXEC.NCFの例 | 12 |
| 5 | Windows NT対応NDIS 3.0ドライバ | 13 |
| 5.1 | 概要 | 13 |
| 5.2 | Windows NTのインストール | 13 |
| 5.3 | ドライバインストールの準備 | 13 |
| 5.4 | NDISドライバのインストール | 14 |
| 6 | NetWare Lite のインストール (NWLINST.BAT) | 15 |
| 7 | 最新ドライバソフトウェアの入手方法 | 15 |
| 7.1 | NIFTY-Serveからの入手 | 16 |
| 7.2 | インターネットのホームページからの入手 | 16 |
| 7.3 | フロッピーディスクでの入手 | 16 |



1 NetWare 4.1J/3.12J クライアントのインストール

1.1 インストール手順

以下に、NetWare 4.1J/3.12J ワークステーションのインストール手順の概要を示します。インストール手順の詳細は、NetWareのマニュアルをご覧ください。

- (1) NetWare 4.1Jの場合は、「NetWare Client for DOS and MS Windows Disk-1」をフロッピードライブに入れ、下記のコマンドを実行してください^{†1}。

```
A:¥>INSTALL
```

NetWare 3.12Jの場合は、「WSDOS_1」ディスクをフロッピードライブに入れ、下記のコマンドを実行してください。

```
A:¥>WSINST
```

- (2) NetWareインストーラが表示するメッセージに従い、1、2、3、4と作業を進めてください。
- (3) NetWare 4.1Jの場合、「5. ネットワークボードのドライバを選択してください」を実行すると、新たな画面「ネットワークボード」が表示されます。最下行の「他のドライバ」を選択してリターンキーを押してください。手順(4)に進みます。
NetWare 3.12Jの場合、「ステップ 5。」を実行すると、手順(4)に進みます。
- (4) 「ドライバディスクの挿入」を促す画面が表示されます。フロッピードライブを本ドライバディスクに入れ替え、下記のディレクトリ名を入力してリターンキーを押してください。

NetWare 4.1Jの場合

```
A:¥NW410
```

NetWare 3.12Jの場合

```
A:¥NW312
```

†1 「INSTALL」を実行する前に、「SET NWLANGUAGE=NIHONGO」を実行してください。この環境変数がセットされていない場合、メッセージが英語となります。詳細は、NetWare 4.1Jのマニュアルをご覧ください。

- (5) 「CentreCOM RE1000」を選択し、リターンキーを押してください。
- (6) 「CentreCOM RE1000 の設定」という画面が表示されます。以下の項目の設定が終了したら ESC キーを押し、この画面を終了してください。

ベースI/Oポート

CFG1000 で設定した I/O アドレスを選択してください。この設定は、NET.CFGに反映されます。

Media Frame Type(S)

ご使用になるフレームタイプを選択してください。

- (7) 以後、インストールプログラムが表示するメッセージに従って操作してください。
- (8) インストールが終了し、DOSプロンプトが表示されたら、リセットスイッチを押してパソコンを再起動してください。

1.2 NetWare ワークステーションのインストール結果

インストールが終了すると、NetWareクライアントの動作に必要なファイルやドライバ「ODI1000.COM」がコピーされ、NET.CFG、STARTNET.BATが作成されます^{†1}。NetWareワークステーションのインストーラに対して、デフォルトの項目を選択したときのNET.CFG、STARTNET.BATを示します。

I/O アドレス

NET.CFGの「Port」の後には、NetWareクライアントのインストーラで選択した数値が記述されます。

インタラプトレベル

NET.CFGにインタラプトレベルの記述は不要です。

デフォルトの STARTNET.BAT (4.1J)

```
SET NWLANGUAGE=NIHONGO
C:¥NWCLIENT¥LSL.COM
C:¥NWCLIENT¥ODI1000.COM
C:¥NWCLIENT¥IPXODI.COM
C:¥NWCLIENT¥VLM.EXE
```

†1 NetWare (4.1J) のインストーラは、AUTOEXEC.BATの先頭に STARTNET.BATの記述行を追加し、PATHに「A:¥NWCLIENT」を追加します。

作成されたNET.CFG (4.1J)

```
Link Driver ODI1000
  PORT 0d0
  FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
  FIRST NETWORK DRIVE = F
  NETWARE PROTOCOL = NDS BIND
  SHORT MACHINE TYPE = PC98
```

作成されたSTARTNET.BAT (3.12J)

```
SET NWLANGUAGE=NIHONGO
A:¥NWCLIENT¥LSL
:DRIVER1
A:¥NWCLIENT¥ODI1000.COM
A:¥NWCLIENT¥IPXODI
A:¥NWCLIENT¥VLM
```

作成されたNET.CFG (3.12J)

```
Link Driver ODI1000
  PORT 0d0
  FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
  Checksum = 0
  FIRST NETWORK DRIVE = F
  SHORT MACHINE TYPE = PC98
  SIGNATURE LEVEL = 0
```

2 NetWareクライアントのNET.CFGの記述の変更

以下のような場合には、net.cfg の編集が必要です。

- [1] ODI ドライバインストール後に本アダプタの I/O アドレスを変更した場合
- [2] NetWare と PC/TCP の共存環境
- [3] NetWare ver4.1J/3.12J と ver3.11J の共存環境

2.1 ODI ドライバのインストール後に I/O アドレスを変更した場合

ODI ドライバをインストールした後で、アダプタ設定プログラム CFG1000.EXE により本アダプタの I/O アドレスを変更した場合、NET.CFG の Port に続けて、CFG1000 で設定した I/O アドレスの値を記述してください。

<例>

```
Link Driver ODI1000
  PORT 1D4

NetWare DOS Requester
  .....
  .....
```

2.2 NetWare と PC/TCP の共存環境

NetWare と弊社 CentreNET PC/TCP の共存環境を構築する最も簡単な方法は、

- [1] NetWare のインストール (ODI ドライバのインストール) を行った後、
- [2] PC/TCP のインストールを行うことです。

[1]、[2] とともに各ソフトウェアに添付されているインストーラ (インストールプログラム) によって、インストールすることができ、メニューを選択するだけで自動的にすべての設定が行われます。

何らかの理由によって、PC/TCP のインストールを行った後、NetWare のインストールを行わなければならない場合、autoexec.bat、net.cfg ファイルの編集を行ってください。

AUTOEXEC.BAT

下記のように、STARTNET 記述行の後に、PATH、環境変数 PCTCP、ODIPKT、ETHDRV の記述をしてください。CONFIG.SYS の編集は不要です。

<例>

```
@CALL A:¥NWCLIENT¥STARTNET
.....
PATH=A:¥PCTCP;%PATH%
SET PCTCP=A:¥PCTCP¥PCTCP.INI
ODIPKT
ETHDRV
.....
```

NET.CFG

NET.CFG ファイルは NetWare において、RE1000*Plus* イーサネットアダプタが使用するI/O アドレス、フレーム、プロトコルなどを設定するファイルです。各 NetWare バージョンと PC/TCP の共存のための NET.CFG の例が、¥NW410¥NET.CFG (4.1J)、¥NW312¥NET.CFG (3.12J)、¥NW312¥NETCFG.311 (3.11J) としてドライバディスクにおかれています。

NetWare 3.11J、3.12J、4.1J とともに、PC/TCP との共存で必要な記述は共通です。NET.CFG の記述に関する詳細は、NetWare のパッケージに含まれるマニュアルをご覧ください。

```
Link support
  max stacks 8

Protocol IP
  Bind ODI1000

Protocol ARP
  Bind ODI1000

Link Driver ODI1000
  Port D0
# FRAME ETHERNET_802.3
FRAME ETHERNET_802.2
FRAME ETHERNET_II
# PROTOCOL IPX 0000 ETHERNET_802.3
PROTOCOL IPX 00E0 ETHERNET_802.2
PROTOCOL IP 0800 ETHERNET_II
PROTOCOL ARP 0806 ETHERNET_II

NetWare DOS Requester
.....
デフォルトの NET.CFG の記述をご覧ください。
.....
```

Frame、Protocol

NetWare 3.11J 以前のものや、NetWare Lite ではフレームとして「ETHERNET_802.3」が使用されます。NetWare 4.1J/3.12J では「ETHERNET_802.2」が使用されます。ご使用になる NetWare で使用されないフレーム、プロトコルは「#」または「;」によってコメントアウトしてください。「ETHERNET_II」は、当社 CentreNET PC/TCPなどの TCP/IP 通信ソフトウェアが使用します。

2.3 NetWare 4.1J / 3.12J と 3.11J の共存環境

ネットワーク環境に 4.1J/3.12J と 3.11J が混在して存在しており、両方にアクセスしなければならない場合、「Link Driver ODI1000」セクションに ETHERNET_802.3 の記述を追加してください。ドライバディスクに含まれる net.cfg ファイルをご使用になる場合は、記述行の先頭のコメントアウトマーク「#」を削除してください。

<例>

```
.....
Link Driver ODI1000
Port D0
FRAME ETHERNET_802.3
FRAME ETHERNET_802.2
PROTOCOL IPX 0000 ETHERNET_802.3
PROTOCOL IPX 00E0 ETHERNET_802.2
.....
```

3 NetWare 4.1Jサーバーのインストール

NetWare 4.1Jサーバーのインストール手順の概要を説明します。インストールの前に下記のことが実行されていなければなりません。

- [1] CFG1000.EXEによって、本アダプタのI/Oアドレス、インタラプトが設定されていること（ETHDIAGを使用し、本アダプタが正常に動作することを確認しておいてください）。

また、ここでは下記の2点を仮定します。

- [2] NetWareサーバーをインストールするパソコンは、ハードディスク容量の一部がMS-DOSのパーティションとして割り当てられており、そのパーティションからMS-DOSの起動ができるよう準備してあります。
- [3] 既にNetWareサーバーのインストールは終了しており、本アダプタのドライバをインストールすれば全て完了の状態となっている。

以下に手順を説明します。詳細に関しては、NetWareパッケージのマニュアルをご覧ください。

- (1) 「SERVER.EXE」を起動します。SERVER.EXEは、A:¥NWSERVERに存在すると仮定します。

```
A:¥>CD NWSERVER
A:¥NWSERVER>SERVER
```

SERVERが起動すると、下記のようなプロンプト（「NetWareのインストールのとき指定したサーバー名」+「:」）が表示されます。ここでは、サーバー名として「LILITH」を仮定します。

```
LILITH:
```

- (2) 下記のコマンドを入力してください。

```
LILITH:LOAD INSTALL
```

- (3) 次のようにメニューの項目を選択していき、「ドライバの選択」画面を表示させてください。

画面「インストールオプション」 項目「ドライバオプション」
画面「ドライバオプション」 項目「ネットワークドライバの設定」
画面「追加ドライバに対する操作」 項目「ドライバの選択」
画面「ドライバの選択」

- (4) 画面「ドライバの選択」が現れたら、「Ins」キー（リストにないドライバのインストール）を押し、表示されるメッセージを確認してください。
- (5) フロッピードライブにドライバディスクを入れてF3キーを押し、「ディレクトリパスの指定」で下記のディレクトリを入力してください。ここでは、フロッピードライブをB:と仮定します。

B:¥NETWARE.386¥410

- (6) 画面「インストールするドライバの選択」が現れます。項目「ODI1000.LAN」を選択し、リターンキーを押してください。
- (7) 表示されるメッセージにしたがい、ODI1000.LAN、ODI1000.LDIをコピーしてください。
- (8) プロトコル、パラメータを設定する画面が現れます。各項目に適切な設定を入力し、「パラメータを保存し、ドライバをロード」を選択してください。各項目について、以下に説明します。

TCP/IP、AppleTalk

必要であれば選択し、設定を施してください。

ポートアドレス

CFG1000によって設定したI/Oアドレスを入力してください。この項目の上にカーソルを移動させ、リターンキーを押すと、選択可能な値のメニューが表示されます。

- (9) 「バインドするネットワーク番号」の入力を求める画面に対して、お客様の環境における適切な数値を入力してください。
- (10) 「追加のネットワークドライバを選択しますか？」に対して「No」を選択してください。以上で、本アダプタのドライバインストールは終了です。
- (11) 次のようにメニューの項目を選択していき、「インストールオプション」画面に戻ってください。

画面「追加ドライバに対する操作」 項目「前のメニューに戻る」
画面「ドライバオプション」 項目「前のメニューに戻る」
画面「インストールオプション」

3.1 AUTOEXEC.NCFの例

AUTOEXEC.NCFファイルの例を示します。ただし、この例では2枚の本アダプタを実装しています。

```
.....  
LOAD ODI1000 PORT=C8D0 FRAME=ethernet_802.3 NAME=ODI1000_1_E83  
BIND IPX ODI1000_1_E83 NET=1024D50  
LOAD ODI1000 PORT=C8D0 FRAME=ethernet_802.2 NAME=ODI1000_1_E82  
BIND IPX ODI1000_1_E82 NET=9E705CB8  
LOAD ODI1000 PORT=C8D0 FRAME=ethernet_II NAME=ODI1000_1_EII  
BIND IPX ODI1000_1_EII NET=6DD0B468  
LOAD ODI1000 PORT=C8D0 FRAME=ethernet_snap NAME=ODI1000_1_ESP  
BIND IPX ODI1000_1_ESP NET=1C1F1B36  
  
LOAD ODI1000 FRAME=ethernet_802.3 NAME=ODI1000_2_E83  
BIND IPX ODI1000_2_E83 NET=214965CA  
LOAD ODI1000 FRAME=ethernet_802.2 NAME=ODI1000_2_E82  
BIND IPX ODI1000_2_E82 NET=21796DDA  
LOAD ODI1000 FRAME=ethernet_II NAME=ODI1000_2_EII  
BIND IPX ODI1000_2_EII NET=CFBC5ECF  
LOAD ODI1000 FRAME=ethernet_snap NAME=ODI1000_2_ESP  
BIND IPX ODI1000_2_ESP NET=7387F29  
.....
```

4 NetWare 3.12Jサーバーのインストール

NetWare 3.12Jサーバーのインストール手順の概要を説明します。インストールの前に下記のことが実行されていなければなりません。

- [1] CFG1000.EXEによって、本アダプタのI/Oアドレス、インタラプトが設定されていること（ETHDIAGを使用し、本アダプタが正常に動作することを確認しておいてください）。

また、ここでは下記の2点を仮定します。

- [2] NetWareサーバーをインストールするパソコンは、ハードディスク容量の一部がMS-DOSのパーティションとして割り当てられており、そのパーティションからMS-DOSの起動ができるよう準備してあります。
- [3] 既にNetWareサーバーのインストールは終了しており、本アダプタのドライバをインストールすれば全て完了の状態となっている。

以下に手順を説明します。詳細に関しては、NetWareパッケージのマニュアルをご覧ください。

- (1) NetWareサーバーの起動コマンド「SERVER.EXE」が存在するディレクトリに、RE1000Plusのドライバをコピーします。ここでは、SERVER.EXEはA:¥NWSERVERに存在し、フロッピードライブはA:と仮定します。

```
A:¥>COPY B:¥NETWARE.386¥312¥ODI1000.LAN A:¥NWSERVER
```

- (2) 「SERVER.EXE」を起動します。

```
A:¥>CD NWSERVER
A:¥NWSERVER>SERVER
```

SERVERが起動すると、下記のようなプロンプト（「NetWareのインストールのとき指定したサーバー名」+「:」）が表示されます。ここでは、サーバー名として「LILITH」を仮定します。

```
LILITH:
```

- (3) ドライバをロードします。「PORT=」の数値は、CFG1000で設定したI/Oアドレスの先頭値です。

```
LILITH:LOAD A:¥NWSERVER¥ODI1000 PORT=C8D0 FRAME=ethernet_802.2 NAME=ODI1000_1_E82
```

- (4) ドライバに対して、IPXプロトコルのバインドを行います。「NET=」に続く数値は、お客様の環境に合った数値を入力してください。

```
LILITH:BIND IPX ODI1000_1_E82 NET=1024D50
```

- (5) 手順(3)(4)で入力したコマンド行は、下記のコマンドを入力し、

```
LILITH:LOAD INSTALL
```

下記の順にメニューを選択して、AUTOEXEC.NCFファイルを保存すれば、次回のサーバー起動のとき、自動的に実行されます。

画面「インストレーションオプション」 項目「システムオプション」 画面「利用可能なシステムオプション」 項目「AUTOEXEC.NCFファイルの作成」

4.1 AUTOEXEC.NCFの例

AUTOEXEC.NCFファイルの例を示します。ただし、この例では2枚の本アダプタを実装し、複数のプロトコルを使用しています。

```
LOAD A:¥NWSERVER¥ODI1000 PORT=C8D0 FRAME=ethernet_802.3 NAME=ODI1000_1_E83
BIND IPX ODI1000_1_E83 NET=1024D50
LOAD A:¥NWSERVER¥ODI1000 PORT=C8D0 FRAME=ethernet_802.2 NAME=ODI1000_1_E82
BIND IPX ODI1000_1_E82 NET=9E705CB8

LOAD A:¥NWSERVER¥ODI1000 PORT=C2D0 FRAME=ethernet_802.3 NAME=ODI1000_2_E83
BIND IPX ODI1000_2_E83 NET=214965CA
LOAD A:¥NWSERVER¥ODI1000 PORT=C2D0 FRAME=ethernet_802.2 NAME=ODI1000_2_E82
BIND IPX ODI1000_2_E82 NET=21796DDA
```

5 Windows NT対応NDIS 3.0ドライバ

5.1 概要

本アダプタ用のMicrosoft Windows NT対応 NDISドライバは、MicrosoftのNDIS仕様 Version 3.0を満たすドライバで、Windows NT Version 3.5で使用することができます。本ドライバは、ドライバディスクの「¥WINDOWS.NT」におかれています。

ただし、Windows NTの対応機種互換リストに挙げられていないパソコン機種で本ドライバをご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのパソコン機種で本ドライバをご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象になりません。

5.2 Windows NTのインストール

まず、本アダプタをパソコンに取り付け、Windows NT Version 3.5、3.51 をインストールしてください。

Windows NT のインストール作業の中で本アダプタのドライバをインストールする場合は、表示される指示にしたがってください（手順は、次の 2.2 に習ってください）。

5.3 ドライバインストールの準備

まず、パソコンに本アダプタを取り付け、MS-DOS を起動してドライバディスクのCFG1000.EXE で本アダプタの設定をお客様の希望の設定値に変更します。工場出荷時設定「D0、0(INT)」のままご使用になる場合はこの作業は必要ありません。

ハードウェア設定を変更した場合は、リセットスイッチ、または電源を一旦オフにした後、再度電源を投入することにより、パソコンをハードウェアリセットしてください。ハードウェアリセットすることによって、新たに設定した数値が有効になります。

次に、CFG1000.EXE の「Lan Adapter の自己診断」を実行し、本アダプタが正常に動作することを確認してください。これにより、ハードディスクなどの他のインターフェースボードと設定が重複していないことを確かめられます。

設定した数値は、後のドライバのインストールのときに使用しますので、記録しておいてください。

5.4 NDISドライバのインストール

「既にWindows NTのインストールは終了しているが、イーサネットアダプタ用ドライバのインストールが行われていない」という場合は、以下の手順を実行してください。

- (1) メイングループの「コントロールパネル」を開き、コントロールパネルの中から、「ネットワーク」をダブルクリックしてください。「ネットワークの設定」ダイアログボックスが現れます。
- (2) 「アダプタカードの追加(P)...」ボタンをクリックしてください。「ネットワークアダプタカードの追加」ダイアログボックスが現れます。
- (3) ネットワークアダプタカードから「<その他>各メーカーのディスクが必要」を選択し、「続行」ボタンをクリックしてください。
- (4) 「フロッピーディスクの挿入」ダイアログボックスが現れます。ご使用になるイーサネットアダプタのドライバディスクをフロッピードライブに入れ、ダイアログの問いに対して、下記のパスを指定してください。ここでは、フロッピードライブをB:と仮定します。

B:¥windows.nt

- (5) フロッピーディスクからドライバをインストールするためのプログラムがロードされ、「OEM オプションの選択」ダイアログが表示されます。「Allied Telesis RE1000 Plus アダプタ」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
- (6) 「Allied Telesis RE1000 Plus アダプタカード セットアップ」ダイアログボックスが現れます。CFG1000 で設定した数値を「I/Oベースアドレス」に設定し（工場出荷時設定のI/Oアドレスは「00D0」です）、「OK」をクリックしてください。
- (7) ダイアログ「バスロケーション」の「バスの種類(T)」で「ISA」を選択し、「OK」をクリックしてください。
- (8) ドライバ、ヘルプファイルなどがインストール先にコピーされ、コピーが終了すると、「ネットワークの設定」ダイアログボックスの「組み込まれているアダプタカード(A):」に、「Allied Telesis RE1000 Plus アダプタ」が表示されます。
- (9) 「組み込まれているアダプタカード(A):」から「Allied Telesis RE1000 Plus アダプタ」を選択し、「バインド(B)...」ボタンをクリックしてください。
- (10) ダイアログ「ネットワークのバインド」の「OK」ボタンをクリックしてください。

い。Windows NTで使用するプロトコルスタックが本アダプタにバインドされず(結び付けられません)。

- (11) 「ネットワークの設定」ダイアログボックスの「終了」ボタンをクリックしてください。

6 NetWare Lite のインストール (NWLINST.BAT)

NetWare Liteのインストーラを実行する前に、以下の手順により、NWINST.BATを実行してください。NetWare Liteのインストーラは、ドライバとインストールのための情報ファイルがドライバディスクのルートディレクトリに存在することを要求します。NWINST.BATは、ドライバとその情報ファイルをルートディレクトリにコピーします。

- (1) 新たなフロッピーディスクを用意し、以下のコマンドにより、本アダプタ用のドライバディスクの複製を作成してください。ここでは、フロッピードライブを B:、起動ドライブを A: と仮定します(表示される指示にしたがってディスクを入れ替えてください)。

```
A:¥>DISKCOPY B: B:
```

- (2) 「ドライバディスクの複製」をフロッピードライブに入れ、下記のコマンドを実行してください。このコマンドにより¥NWLINST¥ODI1000.INS、¥NW312¥ODI1000.COMをルートにコピーします。

```
A:¥>B:  
B:¥>NWLINST
```

- (3) NetWare Lite の供給ディスクをフロッピードライブに入れ、インストールを実行してください。
- (4) 以後、NetWare Lite のインストールプログラムが表示する指示に従ってください。

7 最新ドライバソフトウェアの入手方法

当社は、改良などのために予告なく、本アダプタのドライバのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のドライバソフトウェアは、次の3つの方法で入手することができます。

7.1 NIFTY-Serveからの入手

- (1) NIFTY-Serveにログインし、TOPメニューのプロンプト「>」に対して、「GO SLANVB」を入力します。
- (2) <LAN Vendor Station B>に入会していない場合、入会手続きの「3」を行ってください。「2」の一時利用では、ダウンロードが実行できません。既に、入会済みの方はこの手続きは表示されません。
- (3) <LAN Vendor Station B>のトップメニューが表示されます。**データライブラリ**の「4」を入力してください。
- (4) ライブラリ名からAllied Telesis Data Libraryの「4」を入力してください。
- (5) データライブラリで**データ一覧**の「1」を入力してください。
- (6) 一覧の中からご希望のドライバの番号を入力してください。
- (7) 表示される指示にしたがって、ダウンロードを実行してください。

7.2 インターネットのホームページからの入手

- (1) Netscape Navigatorを使用して、アライドテレシスのホームページ「<http://www.allied-tesesis.co.jp>」にアクセスします。
- (2) 「DOWNLOAD」をクリックしてください。
- (3) 「LAN**アダプター・ドライバー**」の「FTP Server」をクリックしてください。
- (4) 「pub/」ディレクトリをクリックしてください。
- (5) 「drivers/」ディレクトリをクリックしてください。
- (6) ご希望のドライバをクリックしてください。

7.3 フロッピーディスクでの入手

弊社のカスタマー・マーケティング (TEL. 0120-860-442、9:00 ~ 17:30 / 月 ~ 金) までお問い合わせください。実費にて最新ドライバのフロッピーディスクをご提供いたします。



©1996 アライドテレシス株式会社

CentreCOM、CentreNETはアライドテレシス株式会社の商標です。
Windows、MS-DOS、Microsoftは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。
その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。